

施策項目 1 2 コミュニケーション能力の育成

[評価結果]

[担当課:義務教育課(生徒指導・学校安全課)]



担当課HP

総合評価	進展あり
-------------	-------------

定量評価	C
-------------	----------

指標	評点	(a)	(b)	(c)	(d)
	評価数	0	0	2	2
	d 評価となった指標	③			

定性評価	進展あり
-------------	-------------

全国学力・学習状況調査の結果から、自分の考えをもち、筋道を立てて説明することに課題が見られることが明確になったことから、言語活動についての組織的な授業改善や、コミュニケーション能力を高めるための多様な機会の確保が必要。「学級の友達と(生徒)の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」という質問に対しては、前回調査結果を超える成果が見られたところであり、引き続き「高校生ステップアップ・プログラム」「どさんこ子ども地区会議」などを実施し、一層の言語活動の充実と各学校における人間関係づくりの支援やコミュニケーション能力育成を図る取組を行っていく。

[施策の推進状況]

【P】・・・「Plan 令和3年度の主な施策」 【D】・・・「Do 主な取組の状況」
 【C】・・・「Check 施策の課題」 【A】・・・「Action 今後の方向」

《課題・背景》	<p>(1)言語活動の充実 ・新学習指導要領の趣旨を踏まえ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めるため、言語活動の改善・充実が必要</p> <p>(2)コミュニケーション能力を高める学習活動の充実 ・いじめの認知件数及び不登校児童生徒数は、中学校第1学年で大きく増加しており、小・中学校が連携した中1ギャップ問題の未然防止に向けた校内体制の整備や課題解決に向けた取組等の一層の充実が必要 ・生徒指導・不登校等生徒指導上の諸課題に対応するため、各学校において、人間関係づくりの支援やコミュニケーション能力の育成を図る取組について、一層の充実が必要 ・いじめに対する意識の醸成を図るため、児童生徒一人一人がいじめの問題を自分のこととして捉え、考え、議論する活動の充実が必要</p>
----------------	--

(1)言語活動の充実	
[P] 次年度	<p>①「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた教育課程編成協議会の実施</p> <p>①・令和3年度教育課程編成の手引の配付 ・教員等を対象とした「教育課程編成協議会」において、新学習指導要領の趣旨等を踏まえた適切な教育課程の編成・実施や、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を図る「指導と評価の一体化」の実現に向けた学習評価の改善・充実等について、協議を実施(年1回ブロック別で実施)</p>
[A]	<p>①研修内容や普及方法の一層の改善充実</p> <p>①・自分の考えをもち、筋道を立てて説明することに課題がある事から、課題を意識した各学校における授業改善が必要 ・各学校において、新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善がなされるよう「教育課程編成の手引」や「全国学力・学習状況調査北海道版結果報告書」の活用を促す取組が必要</p>

(2)コミュニケーション能力を高める学習活動の充実	
[P] 次年度	<p>①子ども理解支援ツール「ほっと」等の活用について、目標指標の効果的な設定と検証が適切に行われている事例を運営協議会等を通じて積極的に情報共有し、取組を改善 ②「児童生徒仲良しコミュニケーション活動奨励事業」について各管内の取組状況について取組の成果を交流し、共有する機会を充実</p> <p>①「ほっと」等の調査結果を活用した「中1ギャップ問題未然防止事業」、「高校生ステップアップ・プログラム」を実施、取組内容の資料作成、Web掲載 ②「どさんこ子ども地区会議」(10月～12月 各管内)を実施</p>
[A]	<p>①全道の指導主事等に対し、コミュニケーション能力の育成や学校いじめ防止基本方針、不登校対応の改善の在り方等について、生徒指導研究協議会で周知 ②全道の実施状況を共有し、管内の取組の参考とするよう周知</p> <p>①いじめや不登校の未然防止に向け、コミュニケーション活動の充実を含めた未然防止の取組は、PDCAサイクルに基づく取組を改善していくことが重要であることから、引き続き学校に対する指導助言を継続していくことが必要 ②各管内の実態に応じて成果交流会や地区会議を実施していることから、他管内の取組を参考にして実施することが必要</p>

[指標の状況及び評価]

指標の内容	基準値	目標値（上段）						進捗率	評価	出典 (調査名等)	実施主体	調査期 日又は 調査対 象期間	指標の 対象
		実績値（下段）											
		(H29)	(H30)	(R元)	(R2)	(R3)	(R4)						
① 「学級の友達と(生徒)の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができると思いますか」という質問に対して、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した小学校6年生、中学校3年生の割合(%) 【全国学力・学習状況調査】	小	(H29) 66.4	73.2	79.8	-	93.0	100	84.7%	C	全国学力・学習状況調査	文科省	R3.5.27	公立小・中学校の児童生徒(小6・中3)
	中	(H29) 63.7	71.0	78.2	-	92.6	100	82.4%	C				
② 「授業では、学級の友達と(生徒)の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか」という質問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した小学校6年生、中学校3年生の割合(%) 【全国学力・学習状況調査】	小	(H29) 83.3	-	-	-	90.0	100	-	-	全国学力・学習状況調査	文科省	※令和3年度調査項目削除	公立小・中学校の児童生徒(小6・中3)
	中	(H29) 78.9	-	-	-	90.0	100	-	-				
③ 「言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、(外国語活動、)総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか」という質問に対して、「よくしている」と回答した学校の割合(%) 【全国学力・学習状況調査】	小	(H29) 42.7	54.2	65.6	-	77.1	100	70.8%	d	全国学力・学習状況調査	文科省	R3.5.27	公立小・中学校
	中	(H29) 41.1	52.9	64.7	-	76.5	100	66.8%	d				
評価結果	(a) 指標数	(b) 指標数	(c) 指標数	(d) 指標数	定量評価		C	d評価に対する今後の取組	③ 課題を意識した各学校における授業改善のための研修内容や普及方法の一層の改善充実を進める。				
	0	0	2	2									